

道路・港・防災に係る要望活動

■ 11月9日(水)国際競争力強化のための広域幹線道路網などの整備推進を要望

要望先：根本国土交通大臣政務官、加藤財務省主計局主査

訪問者：愛知県、名古屋市、名古屋港管理組合、名古屋商工会議所、中部国際空港(株)、中経連 等

<主な要望内容>

三浦中経連常務理事が、大村愛知県知事等とともに、根本国土交通大臣政務官をはじめ財務省幹部に面会し、愛知県内の道路および港湾の早期整備、大震災時の津波対策など防災対策の早期整備を要望した。

道路整備については、県内のみならず中部圏全体の企業の国際競争力強化に資するべく、名古屋環状2号線をはじめ西知多道路、名豊道路、名岐道路などの早期整備期待が高まっており、これらについて要望を行った。また港湾については、名古屋港の他、衣浦港、三河港の港湾機能強化、さらに南海トラフ地震などを想定し、企業や市民の生活を守るための津波対策などについても継続的に取り組めるよう、予算確保のための要望を行った。

■ 11月9日(水)東海北陸自動車道および東海環状自動車道の建設促進を要望

要望先：大野国土交通大臣政務官、国土交通省幹部 等

訪問者：岐阜県、富山県、三重県の沿線自治体、中経連 等

<主な要望内容>

中経連は、中津川市長をはじめ東海北陸自動車道および東海環状自動車道沿線自治体の首長等とともに、大野国土交通大臣政務官をはじめ国土交通省幹部等に面会し、建設促進を要望した。

東海北陸自動車道については、暫定2車線区間の早期4車線化整備を、東海環状自動車道に

ついては、西回り区間の早期全線開通を、それぞれ物流の効率化や企業誘致、さらには観光振興や国土強靱化の観点などから要望した。

■ 11月21日(月)西知多道路の早期整備を要望

要望先：根本国土交通大臣政務官、武藤国土交通事務次官 等

訪問者：愛知県、名古屋市、沿線自治体、名古屋港管理組合、中部国際空港(株)、中経連 等

<主な要望内容>

三浦中経連常務理事が、中西愛知県副知事等とともに、根本国土交通大臣政務官をはじめ国土交通省幹部等に面会し、西知多道路の早期整備を要望した。

西知多道路は、名古屋港の物流機能強化の他、中部国際空港へのアクセス道路として物流や観光に寄与するとともに、大規模災害時の沿線への緊急搬送路としての役割を果たすことも期待されている。今年度初めて事業化されたが、今後、さらに国の予算が確保され、早期整備が進められるよう要望を行った。

■ 11月22日(火)名豊道路の早期全線整備を要望



田中国土交通副大臣(右から6人目)に要望書を手渡しする訪問者たち

要望先：田中国土交通副大臣、大野国土交通大臣政務官、根本国土交通大臣政務官 等

訪問者：愛知県、沿線自治体、中経連 等

<主な要望内容>

三浦中経連常務理事が、石原愛知県副知事をはじめ蒲郡市長、豊橋市長等沿線自治体の首長とともに、田中国土交通副大臣や大野国土交通大臣政務官、根本国土交通大臣政務官等に面会し、

名豊道路の早期全線整備を要望した。

名豊道路は、名古屋市と豊橋市を結ぶ延長72.7kmの大規模バイパスで、知立、岡崎、蒲郡、豊橋、豊橋東の5つのバイパスによって構成される地域高規格道路である。今回は、全線で唯一ミッシングリンクとなっている蒲郡バイパスの中の9.1kmの未整備区間について、物流の効率化や企業誘致等の観点から早期整備を要望した。

(社会基盤部 山口 智)

鄧駐名古屋中国新総領事 表敬訪問



11月9日(水)、10月に駐名古屋中国総領事に就任された鄧偉氏をはじめ3名が中経連を訪れ、豊田会長、小川専務理事等と懇談した。

鄧氏は、「名古屋を含む中部地域はものづくりの中心であり、人的・経済的交流活動を積極的に行っていきたい。また、中国は国土が広いので、経済の発展が地域ごとでバラつきがある。都市部では環境対策が急務であり、車所持の規制を厳しくしている。環境に優しい車が注目されており、中部地域の企業の技術に着目していきたい」と述べられた。

豊田会長は、「海外の人にとって中部地域は名古屋市より豊田市の方が有名だが、これからは名古屋市への観光を売り込んでいきたい。昇龍道プロジェクトは中経連も参画して活動しており、中国からの観光客は増加した。経済・産業も大事だが、観光を含む人的交流を積極的に推し進めていきたい」と発言した。

(国際部 平山 りえ)

北陸経済連合会との意見交換会

11月10日(木)、中経連は北陸経済連合会との意見交換会を金沢市内にて開催し、水野北経連専務理事、小川中経連専務理事をはじめ17名が参加した。

本意見交換会は、東海北陸自動車道建設を両経連が一体となって要望したことを契機に、昭和47年より毎年開催しており、今回は、「広域観光」「産学連携」「まちづくり」「国際交流」の4テーマを議題に意見交換を行った。

また、これに先立ち、津田駒工業(株)、金沢工業大学を訪れ、先端技術開発の視察や産学連携の取り組みについて意見交換を行った。

(総務部 亀井 勝彦)

日銀総裁と中部経済界との金融経済懇談会

11月14日(月)、黒田日本銀行総裁と中部経済界との懇談会が名古屋市内にて開催され、中経連から竹中副会長が出席した。

黒田総裁は、9月の導入から2カ月が経過した「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」が金融市場においてポジティブに受け入れられている旨を述べるとともに、足元で弱含んでいる予想物価上昇率については、2%の物価安定目標に向けた勢いは維持されているとし、デフレ脱却への意欲を示した。



竹中副会長は、当地域経済については改善の基調は維持しているものの、踊り場の状態にあるとした上で、今後の見通しについては会員企業の多くが中国や新興国経済の先行きや急激な為替変動などを懸念材料にあげていると述べた。

また、米国大統領選挙の話題にも触れ、新政権の経済対策が新たな懸念材料に加わることがないようお願いとした。

日本銀行に対しては、9月の金融政策決定会合で示された金融緩和強化の新しい枠組みや緩和維持の姿勢を評価するとともに、中経連が政府に対して要望活動を行っている防災・減災のための設備投資減税に関連して、日銀による企業に防災・減災投資を促す資金供給スキームの継続と拡充の検討を要請した。

(調査部 山崎 豊)

女性活躍推進セミナー



参加者に問い掛けをする講師の石原氏

11月15日(火)、中経連は愛知県経営者協会と共催で、「女性活躍推進セミナー」を名古屋市内にて開催し、約130名が参加した。セミナーではリクルートワークス研究所の石原直子氏を講師に迎え、女性の活躍推進について働き方改革の視点からご講演いただいた。

石原氏は、労働時間が会社への忠誠心の代替指標となっていることや、日本人特有の勤勉さが「長時間働くことを厭わない労働価値観」を形成していることを説明された。

また、長時間労働の原因となる「取引先の都合」「膨大な仕事量」「帰りづらい職場の雰囲気」「会議が多い」などの事例について、労働時間を短縮するための工夫が紹介され、参加者は熱心に耳を傾けていた。

女性の活躍推進については、ダイバーシティとセットになる概念として「インクルージョン」を紹介された。インクルージョンとは「自分の存在が歓迎されていると信じられる職場」のこと。例えば、時間制約のある人に配慮し、補助業務しか与えないようなインクルージョンのない状態では、職場の活力が落ちてしまうため注意が必要と説明された。

(企画部 岡戸 信之)

第5回中部地域懇話会

11月28日(月)、中経連と国土交通省中部地方整備局は「第5回中部地域懇話会」を名古屋市内にて開催した。

本懇話会は、中部圏の持続的発展に向け、地域づくりや社会資本整備等について、具体的な課題や施策等の意見交換を行う場として設置したものである。

はじめに、塚原中部地方整備局長が、「我々が事業を担うインフラ部分が中部圏発展の支障となつては



挨拶される塚原局長

いけない。企業の生産性向上や防災減災対策に必要なインフラ整備にもしっかりと取り組んでいきたい」と挨拶された。一方、豊田会長は、「中長期的なビジョンを持って着実な取り組みを進めていくことが重要。経済活動の基盤となる交通インフラの充実や防災減災対策強化等の社会資本整備



に向け、関係機関と連携した取り組みを行っていききたい」と挨拶を述べた。

続いて、「中部圏広域地方計画」をはじめとする中部地方整備局の取り組みに関する説明の後、中経連から「新中部圏の創生」や「中部圏交通ネットワークビジョン」の情報提供を行った。

その後、中部国際空港の機能強化や製造拠点集積エリアの渋滞対策等、活発な意見交換を行った。

(社会基盤部 小池 貴士)

定例記者会見

12月5日(月)、中経連は総合政策会議終了後、豊田会長の定例記者会見を行った。

はじめに、米国大統領選挙後、世界的に為替や株式相場が変動していることに対し、先行き不透明な中では冷静な対応が必要であるとの考えを示した。

次に、インド経済視察団の話題に触れ、空港や道路の整備状況、視察先の感想を述べるとともに、

ジェット・エアウェイズへのエアポートセールスについても紹介した(本誌2～3ページ参照)。

続いて、昇龍道の舵取り役で、自身が会長を務める「中部(東海・北陸・信州)広域観光推進協議会」を、「(一社)中央日本総合観光機構」に移行し、観光地域づくりの推進役となる日本版DMOとして組織強化を図ると紹介した。民間ノウハウを活用してマーケティング機能を強化し、戦略的なプロモーションを行うとともに、具体的な数値目標を掲げ、スピード感をもって活動を進めたいと抱負を語った。

最後に、「伊勢志摩サミット」「MRJ」「リニア中央新幹線」など、中部圏の将来に繋がるプロジェクトが始動・前進したが、地域を支える中堅・中小企業はいまだ浮揚の機会を十分に捉えることができないでいると今年を振り返った。さらに、中部圏の真の創生に向けた中経連の役割を整理していると説明。地域の創生、イノベーション力の強化など、重点分野を明確化し、実効性ある活動を展開していくとの考えを述べた。

(総務部 奥田 知子)



昇龍道 NEWS

Vol.30

袁昇龍道大使を招請

11月15日(火)、昇龍道プロジェクト推進協議会(会長:豊田中経連会長)は、(公社)びわこビジュアルビューローとの共催で、昇龍道大使を務める香港・東瀛遊旅行社有限公司(EGL tours) 主席(社長)の袁文英氏による講演会「香港のお客様の心を掴むおもてなし」を長浜市内にて開催した。

レンタカー利用者の急増や訪日ウェディングのブーム等、個人旅行化が進む香港市場の最新状況の他、旅館やホテル等宿泊施設のおもてなしのあり方について紹介された。また、お客様目線でのサービス提供をし続けるためにも、社員一人ひとり



を“人”として尊敬し大切にすることが大事であるとして、全社員に対する誕生日、およびクリスマスカードの配布等、自社の取り組みを交えながら説明された。

講演会終了後には、袁氏との交流会を開催し、約100人の参加者と親睦を深めた。

また、袁氏の来訪期間中の11月14日(月)～16日(水)には、越前漁港や永平寺、黒壁スクエア等昇龍道の4つのモデルコースの一つであるGreat Natureコースの魅力ある観光資源を袁氏に視察・体験していただき、当エリアへの誘客に向けたPRを存分に行った。

(社会基盤部 高井 勇輔)